学校点描

先週は好天が続き、積雪が少なくほっと一息です。昨日は、技労員のＹさんと2階の屋根に上がって雪下ろしをしました。

《Ｓ中学校》

NO.13　H31．１.17

平成最後の１月が始まりました。７日は始業式です。式の中で学年代表の生徒が新年の抱負を発表してくれました。１学年はＡ・Ｒさんが、２学年はＳ・Ａさんが、３学年はＳ・Ｒさんが発表してくれました。内容については各学年だよりの方で紹介されています。なかでもＳ・Ｒさんは、普段いつも聞いている好きな曲の歌詞について話しました。『答えがある問題ばかりを教わってきたよ。だけど明日からは僕だけの正解を探していくんだ』この歌詞の部分にＳ・Ｒさんは惹かれたんだと語ります。「卒業まで残された時間で答えのない答えを探していきたいと思います。」

受検は12日からスタートしています。その生徒が受験する前日の昼休みには、私も面接練習を行いました。３学年の先生方が受験に向けて、面接や作文練習など一生懸命指導したこともあるのでしょう。質問してもしっかり、目を見て受け答えをしてくれました。「中学生の〇〇委員長をしていたようだけど、そこから何を学んだ？」と質問すると、「自分の考えを言うだけでなく、人を納得させてまとめることの難しさです」そんな風に自分の体験から考えて自分なりの答えを話していました。

自分だけの正解

この職業をしていると、当たり前ですが毎年受検のシーズンを迎えます。受検を受ける生徒は、今も昔も人生にとって自分の力を試される大きな試練であるのは変わりません。

わたしは、毎年、この受検の時期になると、ある学校で担当したＡくんとＢくんを思い出すのです。

ＡくんとＢくんは、親友ですが、違う高校を受検しました。同じ日に合格発表があり、Ａくんは合格しましたが、Ｂくんは落ちました。後で聞いたのですが、その夜、Ａくんは、Ｂくんに電話をかけようとしてためらいました。勇気がでなかったのです。自分ばかりが合格したうしろめたさもあったのでしょう。

いつだったでしょうか、通勤の途中車の中で聞いていたラジオ番組でこんな話をしていました。

出来事は埼玉県のある中学校の、とある３年生のクラスのことでした。

推薦入試を受けるＡ子さんにとって、いよいよ明日が受検となりました。不吉な知らせは、この時からあったのでしょうか、美術の時間に内ズックにたっぷりと絵の具を落としてしまいました。ズックの紐も、切れかかっていましたので、どうせ家に帰って、明日の受検のために整えようと思っていた矢先です。授業中であったのですが、担任の先生が入室してきて、Ａ子さんをいつもかわいがっていた新潟のおじいちゃんが亡くなったという連絡をしました。

気もそぞろに、飛んで家に帰って、両親といっしょに新潟に向かったのです。

その夜、Ａ子さんから担任の先生に電話が来ました。新潟にいるＡ子さんは、少々パニックになっているようです。

「先生、わたし、明日の受検にまっすぐ新潟から向かおうと思っていたのですが、内ズックを

忘れてしまいました。どうしたらいいのでしょう・・・・。」
　おじいちゃんの不幸とも重なり、A子さんは、もうどうしたらよいのか、電話口には動揺の声が響きます。
　「ズックぐらい忘れても大丈夫だよ。どうしてもというのなら、明日の朝、受験開始まで届けるから」と、担任の先生は励まします。
　「先生、私のズック、汚れたままなのです。紐も切れかかっているし、一生に一度の受験なのに・・・。」
　「ズックがなくても、受験校の先生に言えばスリッパ借りれるから。」と、先生は、A子さんを落ち着けようと一生懸命でした。
　次の日。
　できる限り、平静に受検させてあげようと、先生は、朝、真っ先に教室に向かいました。

　すると、教室のストーブの前に、一足の真っ白な内ズックが置かれているのです。
　「これ、どうしたの？」担任の先生は、近くにいた、女子生徒に尋ねます。
　「先生、A子ちゃん今日、入試でしょ。昨日、帰る時、ズックが残っていたから、Yちゃんと右、左分担して、家で洗ってきてあげたの。今、ズック乾かしてるところ」
　「ズックの紐は？」と、先生。
　「紐はね、もう私立校で合格したRちゃんが、貸してあげるっていっていたから、借りたよ。縁起いいでしょ。」
　その後、先生は、急いで真っ白なズックを抱えて、受検会場へ向かいました。
　A子さんの受検の影には、こんな友人たちの心が重なり合っていたのです。
　この生徒たちの正解の形がここにあります。

　私が思い出すAくんとBくんの関係はその後どうなったのでしょう。Aくんは受検に失敗したBくんへの電話をためらっていました。
　そうこうするうちに、逆にBくんの方から電話がかかってきたのです。
　「Aくん、合格おめでとう。俺の方は、だめだったよ。」って・・・。
　それに対して、Aくんはどう答えたかというと、こう答えたのです。
　「ごめん。おれ、電話しようとしてできなかった。勇気がなかったんだ。ごめんな。次の高校、がんばれよ。」と。
　こんなやりとりがあったことを、Aくんのお母さんから聞いた私は、深く感動しました。
　Bくんも偉いが、Aくんも偉い。二人の友情は、大人になった今でも続いています。

　正解の形は人それぞれ違うときがあります。それでも、この受検の２つの話は、別の話だけれど何か答えが共通しているように感じてしまいます。

　本当の宝物は、もらったものの中にはないんだな。
　本当の宝物は、贈ったものの中にあるんだな。

　誰かが言ってました。　　（文責　教頭）

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp